

光明寺だより

第75号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583



「生命は」 吉野 弘



生命は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も
めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする
生命は
その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらおうのだ
世界は多分 他者の総和
しかし
互いに欠如を満たすなどとは
知りもせず
知らされもせず

ばらまかれている者同士
無関心でいられる間柄
ときに
うとましく思うことさえも許されている間柄
そのように
世界がゆるやかに構成されているのは
なぜ？
花が咲いている
すぐ近くまで
虻(あぶ)の姿をした他者が
光をまとって飛んできている
私も あるとき
誰かのための虻(あぶ)だったろう
あなたも あるとき
私のための風だったかもしれない

この詩には、仏教の「縁起」の教えに通じるものがあります。
縁起とは、この世のあらゆるものは互いに因となり縁となり、重々無尽に絡み合っており、しかも、お互いが、他を生かしているということなのです。譬えてみれば、この世界は、一個の巨大な網のようなもので、無数の因縁の糸が複雑微妙に絡み合っており、出来上がっているのです。すべてのものがつながっており、私に関係のないものはありません。しかし煩惱の身の私たちにはそれが見えません。
まさに「煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」(正信偈の一節)です。

一口法話

ある中学生の「答辞」



今年8月に刊行された平成22年度『文部科学白書』に、東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市立階上^{はしかみ}中学校の卒業式で梶原雄太君が読んだ「答辞」が全文掲載されたと、NHKニュースで報じられていました。

一人の中学生の記した文章が「白書」に全文掲載されるということは極めて異例のことだそうです。

階上^{はしかみ}中学の卒業式は3月12日、つまり震災の翌日に予定されていましたが、10日遅れて3月22日、同校の体育館で行われました。卒業生の内一人は死亡、二人は行方不明という悲しい状況のなかでの卒業式でした。

卒業式の模様はテレビで放映されましたが、溢れそうになる涙を懸命にこらえながら、未来へ向かう決意を誓う梶原君の姿に多くの人々は涙しました。

ご存知の方もおられるでしょうが、「答辞」の全文をご紹介します。

「答 辞」

今日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか私たちのために卒業式を挙行して頂き有難うございます。

ちょうど10日前の3月12日、春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を五十七名揃って巣立つはずでした。

前日の11日

一足早く渡された思い出の詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起ころとも知らず：

階上^{はしかみ}中学といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。

しかし

自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく奪っていききました。

天が与えた試練というにはむご過ぎるものでした。

辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。

生かされた者として顔を上げ常に思いやりの心を持ち強く正しくたくましく生きて行かなければなりません。

命の重さを知るには大き過ぎる代償でした。

しかし

苦境にあっても天を恨まず運命に耐え助け合って生きていくことが

これからの私たちの使命です。

私たちは今

それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても 何をしていようとこの地で仲間と共有した時を忘れず宝物として生きていきます。

後輩の皆さん

階上^{はしかみ}中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が

如何に貴重なものかを考えいとおしんで過ごしてください。

先生方、親身のご指導有難うございました。先生方が如何に私たちを思って下さっていたか、今になって良く分かります。地域の皆さん、

これまで様々なご支援を頂き有難うございました。

これからも宜しくお願いいたします。

お父さん

お母さん

家族の皆さん

これから私たちが歩んでいく姿を見守っててください。

必ず良き社会人になります。

私は

この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に

本当に 本当に 有難うございました。

平成二十三年 三月二十二日

第六十四回卒業生代表 梶原 裕太



まことに心打たれる答辞です。

大切なものを容赦なく奪われたその悔しさや悲しさは計り知れないものがあるでしょう。しかしそれでもなお彼は「天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく」というのです。

つまり「いかなる苦難に遭おうとも、決して恐れず、ひるまず、他のせいにせず、そのすべてを受け入れ、そうして自らに課せられた使命（助け合って生きていくこと）を果たしていく」と言っているのです。

とても十五歳の少年とは思えない強靱で高潔な精神です。

さらに彼はこうも言っています。

：あたりまえに思える日々や友達が如何に貴重なものかを考え、いとおしんで過あやまりしててください…

これは、「あたりまえ」が「あたりまえ」でいてくれることを喜び、感謝して生きて下さいということですが、これなどは仏法を極めた人の語る人生観です。

こうしてみますと、梶原君は、人生最大の試練をどのように受け止め、どのように乗り越えていけばいいのかわかる、その確かな道標を私たちに示してくれたのです。

彼のような人を「広大勝解者」と言うのでしよう。

思えば私たちの人生は思いがけないことや思い通りにならないことの連続です。

厳しい現実足が立ちずくみ、明日へ生きる勇気を失いそうになることもありま

す。

心が折れそうになったり、周りのせいにしたくなった時は、震災に立ち向かった梶原雄太君のことを思い出したいと思えます。

勝解者しょうげしや—人生の難問題を見事に解決する人

テレフォン法話
0897-53-4585



「報恩講」盛大に行われる！



さる11月30日(水)、「報恩講」が行われました。

報恩講は親鸞聖人のご命日(1月16日)にあたって、聖人のご苦勞を偲びつつ、お念仏のみ教えを喜ばせていただくという浄土真宗では最も大切な仏事であります。

おつとめの後、法座皆勤者の表彰、続いて天岸淨圓先生記念講演が行われました。講演終了後、婦人部の皆さんのお世話で、いも焚きを頂きました。なお今年の法座皆勤者は下記の方々でした。

永井初子・野間幸子・原田寿子・松本朱美・森賀英幸・森賀愛子・森延子・森本隆雄・森本安恵
森本仁・守谷真澄・安永省一・安永敏枝・山路シズエ(敬称略)

【講演主旨】

親鸞聖人は、弟子の明法坊の訃報に、「さして驚くことではない。まことにめでたいことだ」と、手紙に書かれました。

一般常識では、考えられない「死」の受け止め方です。

これは仏さま(阿弥陀さま)の眼を通して見た言葉です。

つまり、生あるものは必ず死すという道理からいえば「死」は、さして驚くことではない。(*死んでもおかしくない命が今こうして生きているということが、実は驚くべきことなのです)



亡くなると同時に永遠のいのち(無量寿)を頂き、浄土に生まれるのだから、死はこの上もなくめでたいことだ、と仰っているのです。

親鸞聖人が私たちにお示し下さったお念仏のみ教えを、ともに喜びたいものです。



彼岸会法座一講演主旨 【講師】 季平博昭師

お釈迦さまは、「人生は苦なり」と言われました。それは、老病死に代表されるように「思い通りにならないのがこの人生ですよ」と仰られたのです。

私たちの苦しみは、思い通りにならないものを思い通りにしようとするところに起こるのです。人生には、いくら頑張っても、努力しても、報われない(思い通りにならない)ことが、たくさんあります。

そうした時、「もっと頑張らなければダメじゃないか」とか「努力が足らんじゃないか」と非難されたら、心を閉ざして頑張る気力を失ってしまいます。しかし、「せっかく頑張ったのに残念だったね」と、報われなかったことをわかってもらえたら、「よし、頑張ってみよう!」と、再び立ち上がっていく勇気がわいてきます。

お釈迦さまは、「阿弥陀さまのお心(あなたの悲しみが私の悲しみ、あなたの喜びが私の喜び、というお心)を支えにして生きなさい」と、私たちに勧めてくださいました。

思い通りにならない人生を生きる私たちにとって、「苦しいだろうね、つらいだろうね、わかるよ、わかるよ」という阿弥陀さまの大悲のお心は、何にも増して苦悩の人生を乗り越えていく原動力になるのです。

平成24年度行事予定表



日時	行事名	講師
1月10日(火) 午後4時	新春記念法座	備後教区光徳寺前住・藤田徹文師
1月16日(月)	正月参拝	
3月15日(木) 午前9時	涅槃会	
3月24日(土) 午後2時	彼岸会法座	大坂教区法栄寺前住・小林顯英師
5月25日(金) 午後2時	宗祖降誕会	兵庫教区安養寺住職・足利孝之師
8月13日(月) 14日(火)	新盆合同追悼法要	
8月16日(木)	お盆参拝	
9月29日(土) 午後2時	彼岸会法座	本願寺中央相談員・季平博昭師
11月30日(金) 午後2時	報恩講	当山住職
12月31日(月)	除夜会・元旦会	

(注)

「愛媛県仏教婦人大会—松山大会」は2月末～3月上旬頃の予定になります。

詳細が決まればお知らせいたします。

なお、追加行事があれば本紙にてお知らせいたします。



新春記念法座

1月10日(火) 午後4時

【講師】 備後教区光徳寺前住

藤田徹文先生



趣味の広場



俳句を楽しむ(五十四)

森本隆を

毎年十二月に入ると、誰かと挨拶を交わすたびに「もう今年も終わりですね」とか「一年たつのは早いもので」などと、決まった言葉が出てきます。その都度、心から月日のたつのは早いと感じます。それだけ息災に生きていることを有難く思わねばならないのかもしれないですね。十二月は行事の多い事はもちろん、家庭生活の上でもするべき事のとても多い月です。今回は、その中でも近頃あまり取り上げられることの少ない行事や生活習慣に触れてみたいと思います。まず、十二月八日。昭和十六年のこの日、日本が米英に宣戦を布告、太平洋戦争をはじめた、いわば開戦記念日です。十二月八日米研ぐ水の音 白川 宗道 十二月八日 目覚めて変異なし 早川邦夫 書を読まぬ若造増えて開戦日 前川みや子 俳句として三句だけあげて見ましたが、それぞれの人のあの戦争に対する思いや感じ

方が詠まれ、個人差が大きいです。一句めや三句めでは既に過ぎ去った遠い過去のこととして、日常生活の中で折にふれ思い出して句に詠み込んでいますが、二句めの十二月八日はまだまだ作者の心の中では生きた思い出としてあるのですね。

十二月十四日は少し話が時代を逆のぼり、元禄十五年の事になります。俳句の季語としては「義士討入の日」、「義士会」として扱われます。

義士会や浅野家の墓所浪速にも 大橋敦子 義士の日や何に触れても静電気 福永法弘 映画全盛期には年末がくると決まって特別超大作で赤穂義士討入りの映画が製作公開され、本懐を遂げた場面では劇場で喚声や拍手が湧き起こったものでした。何年前か前まではテレビでも年末恒例の大型ドラマとして、義士外伝まで発掘して放映されていました。近年になりほとんどなくなりました。年の瀬らしい雰囲気は薄れる傾向の中、一抹の寂しさがありますね。

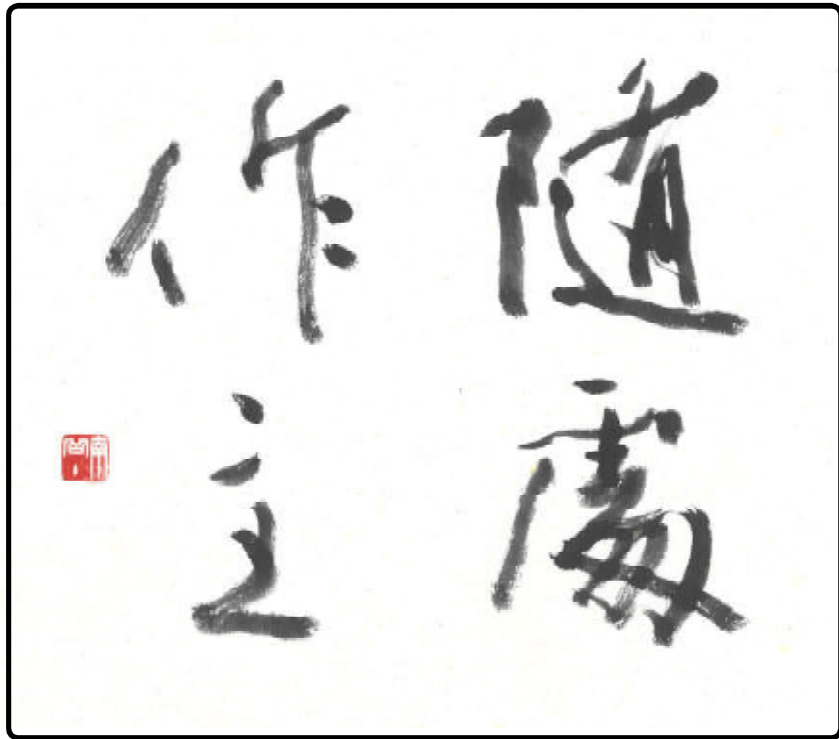
少し変わった行事としては、農山村に古くから伝わる農事に関わるもので、「山の神祭り(山の神講)」というものもあります。本来、山を支配する山の神を祀る日です。この山の神様は、秋の収穫後は近くの山に居り、春になると下って田の神となるとされ、そう言えばこの地方でも農村部では村はずれの里山に山の神を祀つてある所をよく見かけます。

赤き帯して^{てま} 柚の子や山の講 金子 夏雪
味噌色の満月あがる山の講 八巻美喜子
暁に矢を射り山の神祭る 千曲 山人
多くは十二月の七日、九日、十二日などに行なわれたと伝えられ、時期も内容もその地方でいろいろであったらしいのですが、農山村の生活に溶け込んで広く行なわれた行事のようです。

その他、歳時記で冬の季語を見ると誠によくの行事があります。その中の一つに「年用意」というのがあり、新年を迎えるための用意すべてをいう、とあります。即ち「煤^{すすほら}払い」、「畳替え」、「障子張り」、「餅つき」、「床飾り」、「注連飾り」、「門松立て」等々、あげればきりがあります。確かについ少し前までの日本人は勤勉で真面目でした。日々の暮しを謙虚につつましくし、自然に溶け込んで生きていたのですね。



住職書作品



随処作主―随処に主となる
どんな時でも、周りに振り回されず、主体性
を持って生きる

本書は、浄土真宗本願寺派の門信徒の方々に、
これだけは知っておいて頂きたいとの願いから
編集された門信徒必携の書です。
内容は、「み教え」「歴史」「宗門」という大き
な区分で、日々の暮らしの中でお念仏のみ教え
に親しんでいただくための事柄を、やさしくま
とめております。

※ 『浄土真宗必携』は、これまで、帰敬式(「法
名」を拝受する式)を受けられた方に、門徒式章
と共に、記念品として渡されていたものです。
この度、全面改訂され、今後は、この本が、帰敬
式の記念品となります。



浄土真宗必携
『み教えと歩む』

BOOK
本



発行所 本願寺出版社
著者 浄土真宗必携編集委員会
定価 525円(税込み)

除夜の鐘&元旦会

12月31日

午後11時45分

除夜の鐘終わり次第
本堂で元旦会を行います

★甘酒・献杯酒を用意しています



言葉のプレゼント

寒さがつると 愚痴を言い
暑さが増せば 不平を言う
だが その寒暖が育てたもので
生かされている自分に
私たちは なかなか
気づかない



平成24年度年忌繰出表

「年忌繰り出し表」を該当者に配布していますが
手作業のため見落とすことがあります。
必ず、ご自宅の過去帳で確認して下さい。

回忌	死亡の年号
1周忌	平成23年
3回忌	平成22年
7回忌	平成18年
13回忌	平成12年
17回忌	平成 8年
25回忌	昭和63年
33回忌	昭和55年
50回忌	昭和38年
66回忌	昭和22年
100回忌	大正 2年
150回忌	文久 3年
200回忌	文化10年
250回忌	宝暦13年
300回忌	正徳 3年

★9月24日(土) 季平博昭先生をお招きして、秋の彼岸会法座が行われました。25名の参拝者がありました。
た。 (*関連記事4ページ)

★10月6日、2年ぶりに「タイムファイブコンサート」を行いました。落慶法要にお招きして以来、ほぼ毎年のように本堂で素晴らしい歌声を聞かせていただきました。

★11月30日(水) 天岸浄圓先生をお招きして、浄土真宗で最も大切な仏事である報恩講が行われました。当日は法座皆勤者の表彰もあわせてを行いました。30名の参拝者がありました。
した。 (*関連記事4ページ)

★光明寺ホームページのアクセス数が12月1日現在で、25万件を越えました。

